わらしべ会自主提案型職員海外研修レポート（ＨＰ公開用）
～HIS 医療福祉スタディツアー孤児院を訪問＆ボランティア　ベトナム戦争から命の大切さを学ぶ旅～

報告者：社会福祉法人わらしべ会　第二わらしべ園　白井裕梨

日時：平成３０年７月２５日（水）～７月３０日（月）

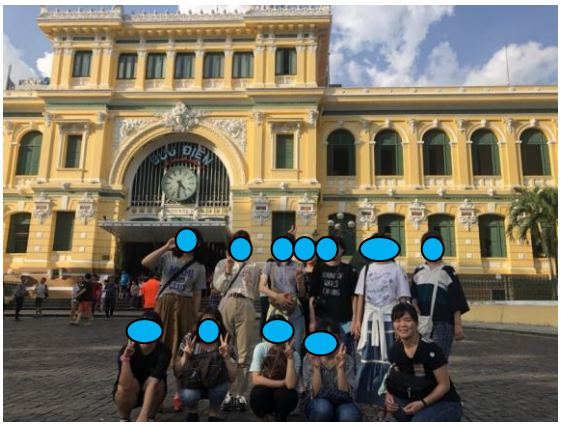
場所：ベトナム社会主義共和国　ホーチミン

研修内容：ベトナム戦争から平和と命の大切さを学び、現代に続く社会問題と福祉事情を知る

■研修概要

日時		行程	備考
25日		移動・顔合わせ	
26日	AM	クチトンネル視察	南ベトナム軍開放拠点。当時の戦線の模様などを学習。
	PM	戦争証跡博物館	ベトナム戦争、枯葉剤による障がいの影響などを学習
		サイゴン大教会	フランス領時代の建築
		中央郵便局	フランス領時代の建築
	夜	１日の振り返り	
27日	AM	知的障がい者作業所 G－COCORO　訪問	日本のNPO法人が支援する作業所
	PM	キークアン孤児院　訪問	寺が運営する仏教系の孤児院
	夜	トレーニングレストラン「フーンライ」にて夕食・オーナーの方を交え、ワークショップ	ストリートチルドレンや孤児院で育った貧困の若者を支援するトレーニングレストラン
28日	終日	クエフーンチャリティセンター 交流・保育活動	約200人の子供が暮らす孤児院
		HISホーチミン支店にて１日の振り返り	
29日	AM	ミト・メコン川へ	水上生活の様子や観光産業を見学
	夜	旅の振り返り	
31日	0:15	タンソンニャット空港　発	
	日本時間7:30頃	関空着	

■参加者：１２名＋ガイド、講師、ゲスト



・講師「名古屋短期大学元教授　野津牧氏」…児童家庭福祉を専門とし、これまで８００人近い学生をホーチミンの施設へ送り出してきた。国際ボランティアには１５年以上関わる。日本の児童養護施設で２０年勤務。

・ゲスト「レストラン・フーンライオーナー白井尋氏」…ベトナム在住２１年。トレーニングレストラン（ストリートチルドレンや貧困の若者を雇用し、住居や雇用の機会を与え、職業訓練・自立支援を目的とするレストラン）をオープンし、孤児院や貧困の若者の社会進出支援を行う。

・添乗「HIS スタディツアーデスクＴ氏」…学生時代、フィリピンでボランティアを行う NGO に関わる。これまでの訪問国は２０か国以上。

・現地ガイド…戦争関連施設や、児童施設を案内できる数少ない現地ガイド・通訳。

●クチトンネル視察

クチトンネルは、１９４６年に作られたベトナム戦争の本拠地。激戦区であった当時の戦法や戦時中の人々の様子が分かる施設。外国人観光客が多く、アジアだけでなく欧米の人も多く訪れる。

総距離２５０㎞に及ぶ地下トンネル、居住空間を掘り、アメリカ軍と戦った。軍事力では到底勝てないベトナム軍は、アメリカ人との体格の差を活かし、肩幅くらいの穴を掘りアメリカ軍が侵入できない空間で戦いぬいた。ベトナムの地形は複雑で攻撃が難しかった。山が多く森林が多い。ジャングルや地下に隠れてなかなか出て来ない、さらに神出鬼没なベトナム軍に手を焼き、ジャングルが無くなれば隠れる場所がないということで、ジャングルに枯葉剤を巻いた。地下での生活は空気がないため空気穴を作ったが、所在が分かるのでアリ塚に似せてカモフラージュした。また、アメリカ軍が猟犬を使って空気穴を発見するので、穴の付近にアメリカ製のタバコや石鹸を置いてカモフラージュ（犬の嗅覚をだます）をしたそう。戦時中、ベトナム人は「足跡が反対になるサンダル」を履いていた。足跡で潜伏地が分かってしまうので、進行方向を惑わすため。タイヤのゴムでできたサンダルで観光用で買うこともできる。ゲリラ戦の中の知恵である。

●戦争証博物館　視察

ホーチミン市内中心部にあるベトナム戦争の博物館。写真が多い博物館で、見て感じることを重視している。戦時中のアメリカ軍の野蛮な殺人の仕方や世界中のバッシング、枯葉剤の影響などを学ぶことができる。日本では入らない情報や、展示が難しくなるようなレベルの直視できない過激な写真も多数ある。館内には感想を自由に書けるノートがあり世界各国の言葉で感想が書かれており、それぞれの国の立場で様々な意見があった。館内の一室では枯葉剤の影響により障害をもつ方々が小物作りをして働いていたり、演奏などを披露して稼ぐ姿もあった。

▼枯葉剤の影響を受け奇形で生まれてきた子供のホルマリン漬け標本。枯葉剤による障害は四肢の欠損、脳性まひ、視覚障害、水頭症、知的障害、ダウン症など。最初は毒性が強く、胎児が育たなかったり、重度の奇形が多かった。今は４世代目になり毒性が弱まっているが現代にも遺伝して後遺症は続いている。

→　日本で有名なベトさんとドクさんの写真。写真右は当時の枯葉剤の影響の実態。

●知的障害者作業所 G-COCORO　訪問・交流

　G－COCORO を支援しているNPO 法人Ｖハートは大阪の法人で、ベトちゃんドクちゃんの支援を行った。発起人が、ベトナムで障害者と関わった時、全く知的障害の支援が進んでおらず心を痛め、日本に法人を作った。施設の利用者は 12 人。３人の専従スタッフがいる。さをり織りはベトナムの施設長が大阪で研修をして、日本から機械や技術を持ち帰った。

「施設訪問内容」

１．案内　２．自己紹介　３．日本語の披露

４．ダンス　５．写真を撮る

６．さをり織りの製品を使ったファッションショー

　日本語を覚える日課がある。日本からのお客さんも多いので、覚えた日本語を披露する機会があり達成感につながっている。日本の数字が書かれたボード→

▼仕事の様子

●キークアン孤児院　訪問・交流

　フランス領時代からある寺院。子供を預かるようになったのはここ２５年くらい。２４０人が生活し、男の子が全体の３分の２。（障がい児は１７０人、元気な子供は７０人）枯葉剤の影響を受けた子供も受け入れている。私立の施設に対する制度がないため運営は主に寄付で賄っている。職員の資格を持った者はおらず、家庭で DV を受け行き場のない母親や障害をもった女性に住む場

所と食事を提供し、その代わりに住み込みとして子供の面倒を見てもらう。

●トレーニングレストラン「フーンライ」　（訪問・ワークショップ・夕食）

サービススタッフ全員が、ストリートチルドレンや貧困家庭、孤児院の出身。サービスや英語を学び、卒業生は一流レストランなどで働いている。ホーチミン中心部にあり、フランス領時代の建物をそのまま使った店内で、ベトナムの家庭料理を味わえる。オーナーが大事にしていることは「スタッフを大事にする」こと。「君のことが無条件で好きだよ」ということを態度ではっきりと示し、肯定感を表す。家庭に居場所がない若者はレストランのみんなが第二の家族になっていく。居場所があると余裕が生まれ良い子になっていく。成功事例のひとつは、北部の出身の子どもで毎日ボロボロの自転車１台に親子２人でゴミ箱あさりをしていた。レストランの近くでその光景を毎日見ていたのでレストランで働かないかと声をかけた。最初は社交性がゼロ、人前には立てないのでキッチンからスタートした。成長しホールで接客をするようになり、有名レストランへ就職した。

●クエフーンチャリティセンター　子どものお世話と交流

創立者／施設長フーンさん（自身も孤児だった）が 2001 年に作った施設。最初はヤシの葉で作ったような家から始まった。現在１歳～１６歳までの 200 人が暮らし、今まで育てた孤児は 341 人。色んな顔立ちの子どもがおり、産みの親が多国籍である背景が分かる。スタッフは住みこみの女性が多い。住む場所がない女性や、障害のある女性が働く。施設の理念は「教育と芸術」。孤児院内の学校には音楽室やパソコン室もある。現代に合わせた教育がうかがえる。

■まとめ■

ベトナム戦争の悲惨さ、戦争で使われた枯葉剤の影響が現代にまで残り引き起こす障害、ベトナムの福祉事情を学ぶ事ができた。世界各国に養護施設や孤児院はあると思うが、枯葉剤の障害を抱えて生きる子どもたちはベトナムだけだと思う。生まれてきた子どもたちは、枯葉剤の障害がある事も、孤児院で生活する事も、彼ら自身の選択ではない。過去や現代の大人達によって引き起こされた理不尽な結果である。生きづらさを抱えながら人生を逆転していくためには、ものすごいエネルギーが必要になる。

ベトナムは戦後約４０年、福祉事情はまだ十分とはいえない。現状を知った私達に与えられた使命とは何か、やるべきことは何か。

今回の旅で、私達が１日や２日ボランティアを行ったところで子どもたちの生活が裕福になりベトナムの福祉が急成長する訳ではない。日本と比較したり「可哀相」という視点で現地にむかうことに意味は無い。スタディツアーは「それでどうなるの？」「偽善ではないか」と周りの人から言われることがあるらしい。しかし、すぐに結果を求めたがるのではなく沢山の人が地球市民の一員として知っていくことが大切である。今回の目的でもあるSDGｓに基づく考え方だが、「遠い国のこと」「自分には関係ない」と目をそらすのではなく、「自分ごと」として関わって行く姿勢が大切である。今の自分の能力や状況を客観的に把握して、目の前にある自分にできることをひとつひとつ実践していくことが大切だと思う。つまり、スタディツアーをとおして、「私は日本とベトナムを知る事ができた」「自分の価値観や人生観が変わった」「今後も子供達と関わり続けたいと思った」「私たちと関わった子ども達がわずかな時間でも楽しんでくれた」「子供たちが忘れてしまっても私たちは覚えている」「その事を日本に帰って多くの人に伝えた」とありのままに受け止め発信していきたい。

「良い生活がしたい」と考えたり、リスクを考えながら「安全で健康に生きたい」と思うよりも、自分以外の人のことを思い行動していく大切さに気付いた。そして、生まれてきた命はひとりひとりかけがえのないもので、ベトナムにある命も、目の前にあるわらしべで生きる人の命も、関わった以上、しっかり大切にしていきたいと思った。

自主提案型海外研修は「世界の今をみつめる職員に」というテーマがある。日本を出て分かったことが沢山あり、入職し７年目に入りマンネリ化した思考も刷新してくれた。自分が学びたいことを学べる環境があるということに感謝したい。

VIET NAM RED CROSS SOCIETY
QUE HUONG CHARITY CENTER
THANKS FOR
MS. SHIRAI YURI
Benefactors:
Address: Japan
Support: Visited and gift for children at Que Huong Charity Center
To help children have better living conditions
QUE HUONG CHARITY CENTER
Founder and Director

■備考　自主提案型研修スケジュール

・H３０年２月　自主提案型研修申し込み・法人プレゼン・審査

・H３０年４月～７月　事前学習レポート　提出

≪研修までの学習計画≫

４月…上旬「ベトナム社会主義共和国　国家体制と国民の生活について（経済・政治・国交・文化・教育・宗教・インフラ・日本との関係　等）」　中旬「社会主義とは」　下旬「ベトナムの歴史　（中国支配時期～フランス支配時期～ベトナム戦争）」

５月…上旬「ドイモイ政策とは」　中旬「ベトナムの社会保障制度、医療福祉、ベトナムの高齢化」　下旬「ベトナムの障害者支援」

６月…上旬「ベトナム戦争について」　中旬…事務長とディスカッション　下旬…HIS 東京本社にて事前学習会「旅マエ」参加

７月…上旬「持続可能な開発会議とは」　中旬「その他、歴史上関連の深い周辺諸国について（カンボジア、タイ等）」

中旬…日本で働くベトナムの方、枚方市日本語ボランティアの方、事務局長と事前学習

・帰国後　報告書提出。広報誌、ホームページにて発信。